

第6回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年10月14日（火）開会：午後7時00分 閉会：午後8時56分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】	齋藤 史朗	委員長	得能 金市	副委員長	北島 清	委員
	高瀬 須美夫	委員	中田 健一	委員	上野 幸生	委員
	渡辺 史男	委員	高田 寧	委員	嶋 潤之介	委員
	吉野 弥生	委員	福田 向志	委員	福田 智恵	委員
	戸成 博宣	委員	船藤 幸輔	委員	館 英二	委員
	坂本 博昭	委員	久惠 文子	委員	酒井 由美子	委員
	水口 賢	委員	谷村 恵子	委員		
	伊藤 正幸	委員代理（天池 哲忠 委員）				
	片岸 亮	委員代理（片岸 梨香 委員）				

【事務局員】	教育長	松本 謙一	教育部長	氏家 智伸
	教育総務課長	上野 容男		
	教育総務課副参事	山本 佳和	教育総務課主幹	小谷 篤史
	教育総務課副主幹	青能 順子	教育総務課主任	井上 健

【会議要点】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶 齋藤委員長
- 3 第5回検討委員会（令和7年8月6日）議事録について
- 4 報告事項について
 - (1) 福光南部小学校を令和9年度に先行統合することに対してのご意見について
 - ・福光南部小学校の統合時期は、当初の案のとおり、令和10年4月1日とすることを確認した。
- 5 協議事項
 - (1) 統合小学校・統合中学校の使用する校舎に関して
 - ・継続協議とし、第6回検討委員会で出た意見を踏まえながら、各団体で再度協議の上、第7回検討委員会で統合小学校・統合中学校の使用する校舎を決定する。
- 6 次回委員会の日程 令和7年11月中を予定
- 7 副委員長挨拶 得能副委員長

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長)

前回までに計5回、検討委員会を開催し、小学校1校・中学校1校で統合を進める形で検討を進めることになっています。

統合小学校、統合中学校の使用する校舎に関しては、それぞれの組織、団体、地域からご意見を集約していらっしゃると思いますので、本日はそのご意見を発表いただき、それをもとに、使用する校舎について検討を進めたいと思います。

3 第5回検討委員会（令和7年8月6日）議事録について

(事務局)

- 資料1に沿って説明 -

(委員)

意見なし

4 報告事項について

(1) 福光南部小学校を令和9年度に先行統合することに対してのご意見について

(委員長)

前回の検討委員会では、事務局から統合小学校の校舎が決まっていることを前提に、福光南部小学校が1年前倒しで、令和9年度に統合予定校に通うことも可能であると提案されました。この提案に対する関係者のご意見について、代表してD委員からご説明をお願いします。

(委員D)

9月26日に学校統合の検討状況に関する説明会を開催し、たくさんの保護者に参加いただきました。

アンケートも実施し、福光南部小学校の在籍児童全65世帯のうち、50世帯から回答を集めることができました。結果は、「令和9年度に統合してもよい」が11世帯、「令和10年度に統合」が39世帯ということで、8割近くが令和10年度に統合したほうがよいという意見でした。

理由としては、「みんなで入学したほうが、環境変化が一度で済んで心の負担が少ない」というものが大多数だったと思います。なお、令和9年度に統合を選んだ理由としては、「少しでも多くの友だちを早く作ってほしい」というものが多数でした。

福光南部小学校としては、令和10年度にほかの小学校とともに一緒に統合すればよいのではないかという結論になっています。

(委員I)

福光南部あおぞら保育園でもアンケートを取りました。全19世帯のうち、15世帯から回答をいただきました。「令和9年度に統合」が6票で全体の40%、「令和10年度に統合」が9票で全体の60%という結果でした。

理由は、D委員が言われたものとだいたい同じです。令和9年度に統合を選んだ人であれば、「早めの統合で体制を整えやすいし、南部校区の子どもの数が少ないので」という理由で

す。令和10年度に統合を選んだ人は、「二段階での統合は子どもにとって負担である」、「二度の環境の変化によるストレスが心配」という意見のほか、「新1年生の子どもたちに学校生活を身につけてもらいたい」、「少人数なので一人ひとりしっかり見てもらえると思う」、「少しでも長く近くの小学校に通わせたい」という意見もありました。

票数の差はわずかですが、ほかの役員とも話し、やはり、票数の多い令和10年度の統合のほうが望ましいと、あおぞら保育園としても考えています。

なお、学校統合に関する要望として、「小学校の統合を見据え、ほかの保育園との交流事業の計画をしっかりと立てて実施してほしい」という意見がありました。今年度の福光南部あおぞら保育園の園児数は年長10人、年中2人、年少1人、3歳未満13人の計26人と少ないです。やはり、ほかの保育園と交流することで、顔なじみが増え、小学校で一緒になってもすぐになじむことができると思います。これについては、統合時期を問わず、早めに実施していただきたいと思います。

(委員K)

福光青葉幼稚園にも、南部校区の人が5世帯おり、そのうち3世帯からアンケートの回答がありました。令和9年度に前倒しで統合をしたいとはっきり書かれたのは、1世帯でした。

一方、令和10年度に統合を選んだ理由は、「南部小学校に1年でもいいので通わせたい」、「令和9年度に統合だと、二度も心理的な負担を経験するから」というものがありました。

また、同じ時期に、特認校制度のお知らせを配られたと思いますが、「特認校制度の対象は新1年生のみだが、対象を福光地域の全学年の児童に拡大し、希望者は前倒しして統合校に入学できるようにしてはどうか」と考えていらっしゃるのが1世帯ありました。

福光青葉幼稚園の保護者としては、前倒し統合をしたいと強く思っているのは1世帯のみです。しかし、来年に小学1年生となる子どもを持つ保護者は、混乱しており、困っておられます。使用する校舎の決定を受けてどこに進学するか決めるところですが、「耐震面で心配なので統合小学校に早く行きたい」というご家庭のご意見も考慮しながら、どのような家庭の判断も受けいただける体制になればよいと考えます。

(委員L)

喜志麻保育園にも、南部小学校区在住の方が何人かいらっしゃいます。それ以外の地域の人もたくさんいますが、「統合時期を令和9年度に1年前倒しすることに対して賛成ですか」という質問の仕方でアンケートを取りました。

結果は、「令和9年度に前倒し統合に賛成」が約8割の30票、「令和10年度でよい」が約2割の6票でした。このようなアンケートの取り方だったので、賛成に導いているというバイアスがかかっていて、本当の思いを汲み取れていないと感じています。例えば、令和10年度に統合したほうがよいという意見には、「混乱もあるだろうが、3校一斉に統合したほうが一度に終わってよい。たった1年だけ統合を早めても、その意義を見出しづらいのでは」というものもあれば、「本当は福光南部小学校に子どもを通わせたかった。少しでも長く存続できればよいと思う」という意見もありました。

(委員長)

皆さんのお話を聞くと、D委員がおっしゃった方向性とほぼ同じだと思います。福光南部小学校の統合時期に関しては、令和10年度ということで進めていきたいと思います。

(委員一同)

－異議なし－

5 協議事項

(1) 統合小学校・統合中学校の使用する校舎について

(委員長)

統合小学校・統合中学校の使用する校舎について協議する前に、各団体から順にご意見をお聞きします。その前に、事務局から検討資料について説明があります。一部の委員から事前に送付した資料が分かりにくいというご意見や、維持管理面についても教えてほしいというご意見がありましたので、本日、事務局から追加資料を配布しております。追加資料も含めて説明をお願いします。

(事務局)

—資料に沿って説明—

(委員長)

今ほど、資料について説明がありましたが、質問があればお願いします。

(委員C)

参考資料の耐震性のところで、中部小学校と東部小学校の I s 値が載っていますが、中学校に I s 値の記載はないんですね。中学校は I s 値が 0.7 以上あるということですか。

(事務局)

I s 値を計測しているのは、旧耐震基準に基づいて建設された学校だけです。小学校は、旧耐震基準で建設されたので、I s 値で計測した上で耐震補強を実施しています。一方、中学校は新耐震基準で建設されており、耐震補強をする必要がないので、I s 値は未計測です。また、学校施設は、I s 値が 0.7 以上あるように求められています。

(委員長)

ほかにないようでしたら、さっそく各団体からの意見を順にお聞きします。福光東部小学校教育後援会から順番にお願いします。

(副委員長)

参考資料にある丸の数というより、各種数値を見ても圧倒的に吉江中学校が有利ですし、客観的な事実のなかで、風水害とか地震といった今一番大事なものに対して網羅されている東部小学校が有利だと思います。

ただ一つ忘れているのは、ランニングコストの問題です。例えば、学校の容積が大きければ大きいほど、間違いないく冷暖房費が増加するため、ランニングコストがかかります。それを比較するにしても、例えば、冷暖房設備の種類を明記していないので、比較しようがありません。だいたいのことは予測できますが、予測では申し上げられませんので、そのような資料がありましたら、公表していただきたいと思います。

2階建ての建物のほうが間違いなくコンパクトです。学校設備は最低でも 30 年は利用しますので、ランニングコストが莫大になります。学校を残すのであれば、この点をしっかりと説明していただきたいと思います。

(委員A)

追加資料は今日初めて見たので、感想をすぐには言えません。ただ、事前に送付した資料をもとにご意見を聞いたなかでは、東部小学校の特別支援学級の配置案は大丈夫なのだろうかとおっしゃる人もいました。

また、子どもたちには直接関係ないかもしれません、年に数回の話になりますが、運動会や学習発表会などで保護者が集まる場合に、中部小学校だと近くに駐車場があるので、駐車スペースの確保が可能ですが、東部小学校ではそれが難しく、どうしても、市道や農道に停めないといけないのではないかと思います。

ランニングコストもありますが、子どもたちのことを考えると、大きな学校でのびのびと教育するのが私たちの責務ではないかということで、中部小学校がよいという考え方です。

中学校の話はあまりしていなかったのですが、意見を聞いたなかでは、福光中学校を残してほしいという意見があったということを申し上げます。

(委員B)

一般の住民には特に聞いておらず、育成会でアンケートを取っています。結果的には、ほとんどが福光中学校へ行くので、近いほうがよいということで、どうしても中部小学校と福光中学校に寄ります。

追加資料を見ていると、どちらが積極的によいとか悪いとかではなく、極端に言えば、どちらも行けるということになると思います。そうなると非常に難しい話であり、私個人としてはどちらがよいという結論にはなりません。

(委員C)

統合予定の学校は、それぞれに特色、そして伝統があつて素晴らしい学校です。地域、保護者の思い、大切に使用してきた子どもたちのことを思うと、校舎選定の議論は難しくて苦しいものでした。今、在学中の子どもたちから昨年福光地域に生まれた45人の子どもたちの世代に、どのような福光、そして、南砺市で育ってほしいか思いを巡らせ、中部小学校では、2回の役員会で校舎使用案を丁寧に話し合ってきました。校舎使用案は、小学校が中部小学校、中学校が吉江中学校です。

まず、小学校案についてです。令和2年度に大規模改修工事を実施しているほか、令和4年度にはグラウンド整備工事を行っており、広くてきれいで使いやすい教育環境となっています。統合小学校は全校児童が466人の予定です。福光地域の子どもたちがのびのびと活動でき、支援学級のスペースが十分に取れ、余剰教室も確保できる中部小学校を提言します。

続きまして、中学校案についてです。中学校は、福光地域だけでなく、南砺市全体として考えました。今、城端地域でも学校統合の話合いをされていますが、中学校に関する城端地域の保護者の声は、義務教育学校の設置が3分の2、他地域の中学校と統合が3分の1だと聞いています。どこの地域との統合なのか明確な統合案も示されず、登下校のバスや電車のシミュレーションもされていないような不安要素の多いなかで、他地域との統合を求める声が3分の1もあることに驚いています。この3分の1の意見は、非常に重いものだと感じました。

さて、今年4月から9月までの半年に福光地域で生まれた子どもは約16人です。半年の数字なので単純には言い切れませんが、今回統合しても、わずか6年後に単級が発生する可能性があります。中部小学校PTAでは、「南砺市立学校のあり方に関する提言書」を支持し、小学校機能は各地域に残しつつも、想定を大幅に下回る出生数の現状を踏まえ、10年後を見据えて南砺市の中心地に中学校を新築するか、新築が現実として難しいのであれば、既存の学校を活用して一学年70人～100人規模である統合中学校を設置することを求めます。中学生世代は、生徒が集団のなかで多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じ、思考力、判断力、問題解決能力などを育むことが望ましいと考えました。

以上のことを踏まえ、福光駅から徒歩5分の立地にあり、南砺市の中心に近く、将来的な統合校になりうる吉江中学校の使用を提言します。

(委員D)

小学校は中部小学校、中学校は福光中学校という思いです。

南部小学校は、もともと福光中学校と吉江中学校にそれぞれ分かれて入学しますが、福光中学校に通う生徒のほうが多いです。アンケート結果は中部小学校と福光中学校とする案が多くたのですが、もともと通う中学校がある校区の学校を選ぶ傾向にあると考えられ、このような結果が出たのではないかと思います。

中部小学校と福光中学校を選ぶ理由として多かったのは、「通うのに近い」、「福光中学校のほうが立地条件がいい」、「駐車場が広い」、「体育館もあって便利」、「交通面もこちらのほうが安全では」というものでした。

東部小学校、吉江中学校を選ばれた人からは、「南砺市のバス路線の中心であり、福光駅にも近いので、公共交通機関を利用した通学の場合は、福光中学校よりもメリットが大きいのではないか」という意見がありました。

なお、親御さんの意見として一番多かったのは、スクールバス・特別支援学級・駐車場・学童の4点をしっかり整備していただきたいということでした。

(委員E)

役員で資料をもとに話し合いをしたところ、小学校・中学校とも片方の校区にあったほうがよいという意見でした。グラウンドなどの規模からしても、小・中ともにどちらもそんなに大きな違いはないという話もあり、そうであれば、交通の便を考えて吉江中学校と東部小学校がよいのではないかという意見が多かったです。ただ、我々は東部小学校区なので、どうしてもそのような意見に偏りがちではあります。

スクールバスをしっかり整備することが大前提で、将来的な交通の便などの利便性を重視すればよいのではという意見も多かったです。

(委員F)

PTA役員に対し、「どちらの校舎を利用する方がよいか」という質問でアンケートを取りました。結果、小学校は中部小学校、中学校は福光中学校という意見になりました。理由も聞きましたが、「新しい校舎のほうがよい」、「通うのに近い」などの色々な意見がありました。

先ほどから色々な話がありましたが、この選定に当たって一番大事なのは、子どもたちの教育環境を第一に考えることだと思っています。コストのこともあります、学校の広さや安全性などの色々な観点から、子どものことを第一に考えて最善の校舎を選ぶというのが私の意見です。そのようなことを重視し、色々な話し合いを進めていきたいと思います。

そして、検討する過程で色々あると思いますが、このような資料を参考にしながら、各方面への説明の機会も増やし、少しでも理解を得られるように話を進めていきたいです。

(委員G)

役員の意見を聴取しました。結果から言いますと、小学校は東部小学校、中学校は吉江中学校です。

多くの意見がありましたが、役員から「小学校と中学校を別々の校区にわざわざ分けて得られるメリットがよく分からない」という意見があつたことや、吉江中学校PTAということもあり、このような結果になりました。

(委員H)

福光どんぐり保育園では、全家庭にアンケートを取りました。その結果、約98%が福光中学校と中部小学校という意見になりました。小中共通の意見として、「通学に近いから」という意見が一番多かったですが、「中部小学校・福光中学校とともに、校舎のキャパシティに余

裕がある」や、「運動会や学習発表会のときに、福光体育館の駐車場なども利用できるなど、駐車スペースが広い」といった意見もありました。

安全面に関する意見も多く、「吉江校区は主要道路や交通量が多くて不安」といったものがありました。「今後子どもの更なる減少を考えると、小中を同じ校区にして小中の子どもが一緒に通学できるほうが安心」、「スクールバスもまとめて運行できる」、「中部小学校は巨額の費用で改修工事やグラウンドの改修をしたばかりなので」といった意見もありました。

ハザードマップに関することも多く、「吉江中学校と東部小学校の周辺が浸水想定区域に入っており、豪雨やゲリラ雷雨が頻繁に起こるようになった昨今、災害が発生した場合、親が迎えに行くことも困難になってしまう」という意見がありました。

(委員 I)

あおぞら保育園でもアンケートを取り、小学校は中部小学校、中学校は福光中学校となりました。ほかの団体と同じように、自宅が近い学校を選ぶ保護者が多かったです。そのほかに、「兄弟姉妹の送迎がスムーズにできるように小中を同じ校区にしてほしい」という意見や、「中部小学校と福光中学校に関しては周辺に体育館があり活用しやすい」、「校舎の面積が広い」、「駐車スペースが広い」という意見もありました。

その他の統合に関することについては、「校章、校歌、学校名を新しいものにしてほしい」という意見や、制服や体操服の購入への補助金を望む声も聞かれました。

(委員 J)

アンケートを取り、合計 63 人から回答をいただきました。結果、「東部小学校」が 43 人、「中部小学校」が 7 人、「どちらともいえない」が 13 人でした。中学校は、「吉江中学校」が 46 人、「福光中学校」が 5 人、「どちらともいえない」が 12 人でした。アンケート結果でいうと、こちらも東部小学校と吉江中学校を使用したいという意見が多かったです。

やはり、交通面で考えたときに、通学に近いほうがよいという意見が多かったです。意外にも、「どちらともいえない」や、どちらがよいか判断しきれずにアンケートを書き直している人が何人かいて、意見を決めかねている感じはありました。

また、小学校と中学校を各校区に 1 校ずつ分散させたほうがよいのではないかという意見もありましたが、アンケートでいうと東部小学校と吉江中学校ということになっています。

(委員 K)

福光青葉幼稚園は、アンケートに回答した世帯が、東部校区 11 世帯、中部校区 12 世帯、南部校区 4 世帯、城端校区が 2 世帯となっています。東部校区と中部校区の在住者数にあまり差がないのが特徴だと思います。

アンケート結果は、小学校は、中部小学校が 15 票、東部小学校が 7 票で中部小学校を支持しています。中学校は、吉江中学校が 19 票、福光中学校が 8 票ということで吉江中学校を支持する結果となりました。

意見としては、これまでに出たものが多いので、出ていないものを申し上げます。福光中学校を支持している人は、「グラウンドにナイター設備があるから」という意見がありました。また、「トイレが全て洋式化しているのが吉江中学校だから」という意見も 9 票ありました。

小学校に関しては、「中部小学校にはエレベーターがあり、子どもの友だちが骨折して車いすになったときに、不自由なくエレベーターを使用して学校生活を過ごすことができた」という記述がありました。また、トイレのことに関しては、「全て洋式化しているのが中部小だから」という意見も 2 票ありました。

また、「どの小学校でもどの中学校でもよいが、スクールバスの整備に合わせ、屋根があるところで子どもが待てるように、バス停の整備もお願いしたい」という意見もありました。

(委員L)

喜志麻保育園でも同じくアンケートを取りました。まず、「どちらも同一の校区に集約するパターンと、福光中学校区に1校と吉江中学校区1校ずつの分散パターンのどちらがよいか」という聞き方をしています。その結果、集約配置パターンが25票、分散配置パターンが13票と、だいたい3対2に分かれました。

集約配置を選んだ人のなかで、福光中学校区がよいと回答したのが15票、吉江中学校区がよいと回答したのが10票で、これも3対2です。

一方、分散配置を選んだ人のなかでは、福光中部小学校と吉江中学校の組合せが10票、福光東部小学校と福光中学校の組合せが3票でした。

この数字について申し上げると、私どもの保育園は、福光地域以外のご家庭が4分の1ほどあります。45家庭のうち、10家庭ほどは福光地域在住ではありません。園舎は吉江校区に位置していますが、東部小学校に進学する子どもは半分以下で、どうしても福光中学校区とする意見が多くなっています。一番多いのは両方とも福光中学校区ですが、追加資料が出てきたので、もう一度アンケートを取らないといけないと思っています。

(委員M)

会長会で話をしました。中学校はどうかという話をしたところ、福光中学校区の地域づくり協議会の人は福光中学校と言われますし、吉江中学校区の地域づくり協議会の人は吉江中学校と言われますので、自由な話合いの結果、まとまることもなく平行線で終わりました。

それに対し、小学校については、多くの人が中部小学校でした。多くの費用をかけて改修工事とグラウンド改修をしているので、設備が整っている点から中部小学校ではないかという意見です。

また、「参考資料に、知的障害と情緒障害のクラス編制のことが書いてあるが、特別支援学級の種類には、このほかにも言語障害、肢体不自由、難聴、弱視がある。近隣市でもこれらの支援学級が開設された例があるので、今後このような支援が必要な子どもが入学し、知的障害と情緒障害以外の学級開設が必要になることも考えられるので、教室数はゆとりを持ったほうがよいのではないか。その点からも中部小学校がよい」という意見もありました。

(委員N)

商工会青年部では、全員にデータで資料を配信して意見を求めましたが、意見は1件もありませんでした。ただ、数名で話し合ったところ、今の段階でどちらがよいとか、どこに集約しようかというところまでにはいかないということでした。今のような話を積み重ね、検証としっかりととした判断、最終的には専門的知見から判断してほしいと思います。専門的な分野に携わっている人や知識が豊富な人もいらっしゃるかもしれません、どれが本当にいいのかきちんと判断できる能力があるのかというと、私どもも自分の意見の域を出ないと思っているところもあるので、地域の皆さんの意見を大事にして決めていたければと思います。

あと、今日の追加資料の作り方で語弊があったら嫌だと思っているのは、参考評価で丸印がついていて、この丸印は非常に重いと思いますが、どのような人がどのような判断で丸印を付けているのでしょうか。また、洪水ハザードマップに関しては、東部小学校も吉江中学校も浸水はしないと思います。周囲と書いてありますが、周囲はどこまでなのかということや、福光地域のハザードマップは川を挟んで両方全部浸水範囲なので、この丸印が本当に正しいのか、また、小矢部川以外、例えば、明神川は大丈夫なのかと疑問に思った点もあるので、精査していただきたいです。

また、私自身が東部小学校と吉江中学校出身なので語れますが、東部小学校には県内有数の相撲場があつたり、吉江中学校には町技であった卓球場が整備されています。おそらく、

同じようなものが中部小学校や福光中学校にもあると思います。部活動や地域の伝統文化などを補えるような施設が学校には配置されていると思うので、そのような施設の維持管理も含めて検討要素にすればどうかと思いました。

商工会青年部の真骨頂ではありますが、統合に当たっての保育園同士の交流のお手伝いなどの話があれば、尽力させていただきたいと思っています。

(委員O)

スポーツ協会としては、当初から一貫して福光校区に1校、吉江校区に1校という意見です。どちらがいいかという話になりますと、以前からも言っていますが、小学校は中部小学校、中学校は吉江中学校とい方向でいきたいと思っています。

比較表を見ましても、どの小学校や中学校にても一長一短ありますので、どれがいいとは言えません。そうなると、第三の意見として住民感情というのも当然あると思いますので、住民感情も考慮しました。

(委員P)

結論から言いますと、スポーツ協会と同じ考え方です。子どものことは絶対に考えないといけませんが、地域住民のことを考えるのも大切であり、小学校は福光中部小学校、中学校は吉江中学校が望ましいと思います。

福光中部小学校は広く、そして大規模改修を実施してから日が浅いので、これからも使っていかなくてはいけないと思います。

中学校は、吉江中学校も福光中学校も大規模改修はされていませんが、建設年度が新しく、そして今後の維持管理の面で吉江中学校がよいのではと思います。また、これは今後の話ですが、統合校の名称には「福光」という名前を残してほしいというのが皆さんの総意でした。

(委員Q)

毎年小学校、中学校を訪問しておりますが、どこも大変素晴らしい施設だと思っています。

普通学級のなかにも様々なお子さんがいて、個別に指導する場合もこれからも出てくると思いますので、小学校は新しくて使いやすく、教室数も多い中部小学校がよいと思います。

中学校は、9年間で両方の校区を経験してもらえたらいといいう点と、先ほどから言われている住民感情という点で、吉江中学校がよいと思います。

(委員長)

今、みなさんの意見をメモしましたが、数字の上では小学校は中部小学校、中学校は吉江中学校となりました。私の立場から見ていると、住民感情といいますか、自分の地域に小学校・中学校を置いてほしいというのが一番大きいと思います。通学や安全面やハザードマップなどの問題もありましたが、福光校区・吉江校区にそれぞれ所在する団体の意見は、ほとんどが小学校と中学校を自らの校区に集約するというものでした。ただし、それぞれの地域に位置しない団体からは、各校区に1校ずつあるほうが円満ではないかという意見も聞かれました。

私としては、今の皆さんのご意見を聞かれた上で、どのように考えられるかをもう少し検討していきたいと思います。今のそれぞれの地域、団体の発表を聞かれた上でのご意見を、時間の限りお聞きしたいと思います。最終的な結論を必ず今日出さないといけないというわけではないので、ご意見をお聞かせください。

何人かの委員がおっしゃったように、検討資料では2つの学校を比較していますが、私自身も校舎に関して決定的な差はないと思っています。多数決をすれば1票差になるような僅差な部分もありますので、資料も参考しながら、意見を出していただきたいと思います。

その前に、事務局に説明いただきたいことがあります。追加資料に丸印がついていますが、これを見ていると、片方に軍配が上がったような形で非常に重く見えます。例えば、0歳児から5歳児の人数を見ると、中部校区が163人、東部校区が167人に対し、東部小学校に丸印がついていますが、それでよいのかと思いました。丸印の判断も含め、補足説明をお願いします。

(事務局)

教育長をはじめ、教育委員会内で相談した上で、どちらかといえばこちらが有利という意味で丸印をつけています。どちらがダメという意味ではなく、丸印の数の多寡を判断基準として考えていません。

先ほどの0歳児から5歳児の人数については、全体の数では大きな差はありませんが、吉江地区に104人いて、一つの地区でこれだけの人がいるというのは非常に重要だということで、どちらかといえばという形で東部小学校に丸印をつけています。

(委員長)

それも判断資料の一つだということですね。この資料は今日ここで初めて出しており、ここに出席されている人以外は知らないので、その辺りも踏まえて考えていただきたいと思います。ひととおり意見が出たところで、各団体からの意見をお聞きした上で、ご自分のお考えがあれば、出していただきたいと思います。

(委員C)

私だけ、中学校の選定方法がほかと異なっていたように思いますが、広域的な面で考えた場合、吉江地区に統合中学校を建設するということは可能なのでしょうか。

(教育長)

おそらく20年後には、福野中学校を新築しないといけない状況になっていて、その頃の子どもの人数を考えると、中学校が一つになる可能性は高いのではないかと思っています。ただ、それが吉江になるかは全く分からないですし、そもそも、統合するかどうかまではつきりしていません。その頃には、教育行政も文科省の制度もどのように変わっているか分かりませんし、設備もどう変わっているか分からないので、そのときの人に考えてもらえばよいと思っています。

そのためには、学校の新築はしないで、余力を残しておく必要があります。頻繁に建てていたら、市として将来的なことを見据えづらくなるので、新築をしないという前提で考えていただいております。将来的な統合校が吉江に来るかと聞かれても、残念ながら責任もっては言えませんが、選択肢の一つとしてはあると思います。

(委員C)

先ほどから、片方の校区に集約するという話や、両方の校区に1校ずつ配置という話もありましたが、仮に吉江中学校にするとすれば、城端線の駅が近いので、城端地域の方も話もしやすいと思います。また、砺波市の庄西中学校の近くに小学校があるかというと、そうではないので、必ずしも統合中学校と同じ地域に小学校がある必要はないと思います。

(委員長)

今ある学校であれば、少なくとも20年は維持できます。途中に下手に学校を建設し、そこに何億円もかけてしまうと、本当に大きな統合校を建設するときにお金がなくなってしまうので、その点を教育委員会は踏まえています。

広域的なことについては、現在、在学中の子どもや今生まれた子どもたちが直接関わることは非常に少ないと私は思いますので、その時代の方々の判断が重要になると思います。実は、30年も経てば、教育環境はものすごく変わります。今は1学級が35人ですが、おそらく20年も30年も経てば、国の法律も変わり、1学級の人数もヨーロッパ並みの20人とかになってくるかもしれません。ですから、 性急に30年後、40年後のことを見据えてしまうと、かえって将来に禍根を残すことになるかもしれません。まずは、今、目の前にいる子どもたちのために、最善の選択は何かということを考えたいと思います。

(委員J)

私個人の意見としては、小学校は中部小学校で、中学校は吉江中学校でよいと思っています。アンケート結果があるので、かがやき保育園としての意見はありますが、一番子どもが多い吉江地区がどちらにしても徒歩通学になるとすると、気持ちとしては、どちらの小学校でもよいと思います。

それから保護者の皆さんには、校舎がどちらになるのかよりも、その先のことを気にしています。例えば、2kmは絶対に歩かないといけないのかといった話です。制服の話もそうですが、「制服は必要なのか」、「体操服だけでよいのでは」という声も聞こえます。ハードの面ではなく、今後の部分に関して話を聞いてほしいという意見をアンケートに書いている人が多いです。ですので、この辺りの話はできるだけ早く終わらせ、具体的な中身の話をていきたいという気持ちがあるということをお伝えします。

(委員長)

具体的な中身の話は、この後の設置協議会での話になると思います。

(委員H)

どなたもスクールバスを懸念材料として挙げられています。まだどちらの校舎を使うか決まっていない状況ですが、教育委員会でスクールバスについての試算や話し合いを多少はされているのか、それともまだなのかお聞かせください。

(事務局)

具体的な話はまだですが、中部小学校と東部小学校には、現状スクールバスがありますので、それが伸びるということになります。その途中に児童がいれば、当然乗せていくという形になりますので、現状と大きくは変わませんが、網羅する形にいたします。

中学生はバスを使っている人数も限られていますので、改めて見直すことになります。

(委員F)

アンケートのなかで、「ほかの学校の中に入ったことがないので比較できない」という意見がありました。資料で平面図をもらっても、見ただけでは分からぬところもあります。実際に現場に行き、校内を確認する機会を設けることはできますか。検討資料には書かれていないような細かいところを確認できれば、もうちょっと分かりやすいと思います。

(事務局)

学校見学会のような企画があればよいということですね。例えば、役員の方々でこの日に見に行きたいということがあれば、100人といった大人数での見学は難しいですが、教育委員会に対し、個別に相談いただければ、それぞれの学校と教育委員会で調整します。

(委員B)

先ほども言いましたが、決定打がないということで、どうしても地域バイアスがかかりやすいと思います。どうやって決めるかが問題ですが、多数決にするのかというと、それも難しい問題であり、このメンバーで決めてよいのか前から疑問があります。ある程度、長所と短所を見て、先ほど委員からの発言にもあったように、専門家のような社会的判断を含めて判断する人がいるべきではないかと思います。

(委員長)

皆さんのお話を聞くと、3つの案が出ていると思います。一つは、「中部小学校と福光中学校」。もう一つは、「東部小学校と吉江中学校」。最後に、「中部小学校と吉江中学校」。

今ほどあったとおり、この場でどちらがよいか多数決で決められるものではないと思いまし、新たな追加資料も出しているので、これを見て判断することも必要だと思います。皆さんのご意見をお聞きしたいと思いますが、私自身はこの場で決めるのは難しいと思います。教育委員会としてはいかがでしょうか。

場合によっては、今の協議を受けて持ち帰っていただき、1か月後を目途に再度検討する会を設ける必要があるかどうかも含めて考えてみたいと思います。この場で焦って決めてしまうのも問題だと思いますから、この委員会で出た他団体の意見もお伝えいただき、各団体で再度協議いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(教育長)

今、委員長から提案がありましたが、新しい資料もありますので、各団体の役員だけでもいいませんので、もう一度確認していただき、次の検討委員会で決定するということですかがでしょうか。

(委員K)

できれば、11月14日までに決めていただきたいと思っています。なぜかというと、特認校制度の申込期日が11月14日までだからです。来年小学1年生になるお子さんをお持ちの保護者が、使用する校舎が決まらないことに対して大変悩まれています。

(教育長)

11月14日よりも前に決定できればよいのですが、特認校制度については、間に合わなければ締切りを延長します。この点は、教育委員会できちんと対応いたします。

(委員A)

自分の学校のことは分かるけれども、ほかの学校には行ったことがないということで、ほかの学校の良し悪しをなかなか言えないと思います。年配の人の意見はなかなか変わらないので、若い年代、せめてPTA、保育園の方だけでも4校を見て回る機会を作っていただき、その方々で協議をしたほうがよいと思いますが、どうでしょうか。

(教育長)

学校を見る必要があるというのは、なるほどと思って聞いていました。先ほど言ったように、どこかの団体が校内見学に行きたいという場合は、教育委員会にお伝えいただければ調整します。

また、若い世代だけで協議して決定することは考えていません。協議して決定することは、この委員会の仕事ですので、委員会の責務として考えていただきたいと思います。

(委員L)

確かに、私は、ほかの小学校や中学校の校舎が分からないので、そういう機会を作つていただけるのであれば、なるべく見学したい思っています。

また、追加資料を踏まえ、もう一度アンケートの機会を設けたいと思っています。追加資料に修正が入るのであれば、そのあとにアンケートの質問を作りたいと思います。また、事務局へのお願ひですが、各委員の意見をまとめたものがあると助かります。

(事務局)

議事録は当然作成しますが、少し時間がかかりますので、ポイントだけでもピックアップしてこの表に書き足す形で作成したいと思います。少しお時間をいただき、作成次第、皆様にご案内します。

(教育長)

ところで、先ほど委員からハザードマップのことでご指摘がありましたが、校舎そのものは浸水しません。この点はご認識ください。

(副委員長)

吉江中学校のグラウンドには調整池の機能があります。水が来たときに溜めるものであり、法律で定められています。公共建築にこの調整機能は確実に必要ですので、この点は理解してください。

(委員長)

先ほども申しましたとおり、ここで結論を出すのは難しいということだと思います。やり方は色々あると思いますが、学校見学のほか、新たに修正した追加資料を事前に出していただき、最終的に皆さんのご意見をもう一度お聞きした上で、次の検討委員会で結論を出すということで進めたいと思います。

6 次回委員会の日程

(事務局)

日程調整の上、1か月後をめどに開催したいと思います。個別の学校見学については、教育委員会に人数と時期をお知らせいただければ、対象の学校と個別に調整します。

7 副委員長挨拶

(副委員長)

なかなか結論を導き出せないというのもありますが、この検討委員会は何のためにあるのか考えていただきたいと思います。

この検討委員会は、最終決定機関です。検討委員会で出たことは、その場ですぐに理解できるものではないので、各団体に持ち帰ってフィードバックして、次の検討委員会で協議を積み上げていくことになります。この委員会を立ち上げ、協議することの意味合いはご存知でしょうか。この検討委員会で決められないというのであれば、教育委員会に決めてもらえばよいだけの話であり、検討委員会の存在意義がありません。その点をしっかりと理解していただきたいと思います。